谷田風土記 76

谷田（やだ）地名の由来

県立大学のあるところは、静岡市谷田だが、なぜ『やだ』というかについての、説明はなかなかない。一番古い文献は、『駿河新風土記』である。これは、谷田について、次のように書いてある。

『谷田、吉田に並びたる村なり。矢田山とある是なり。村名は、字のごとくなるところなり』

つまり有度山で矢竹がしげっている処だから矢竹山とも矢田山と言ったのである。村名も徳川中期（享保）のころは『矢田村』と公文書に書かれているが、後世、谷のあいだが開かれ、田をつくるようになったので、谷田という字も使われたと思われる。

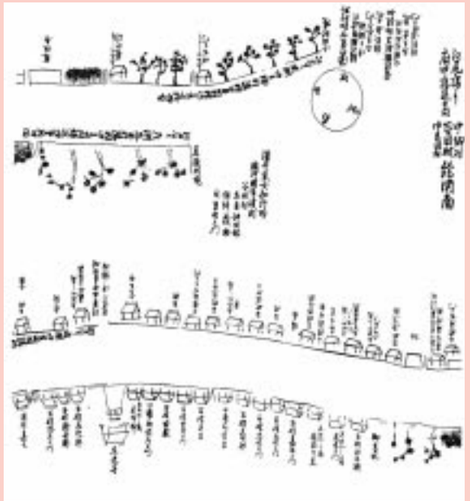
『領主は、旗下・酒井采女』

谷田村は、昭和三十年四月一日、中吉田、中之郷、平沢とともに清水市に合併した。三十三年四月一日には、中吉田全区、平沢全区、中之郷と谷田の一部が清水市から分かれて、静岡市になったのである。だから昭和三十年から三年間、県立大学は、清水市だったことになる。このときのしこりは、現在も残っている。

いま江戸時代の古絵図がある。これによれば、谷田村は酒井采女（越中守）の領地とある。石高一三四石八七である。

絵図左下の東光寺は、いまも現存する。その門前が東海道である。

（国際関係学部教授・高木　桂蔵）



江戸時代の谷田

第１６回剣祭開催

本学の大学祭である「第１６回剣祭」が11月２日（土）から４日（月）までの３日間開催された。今年の剣祭のテーマは「ぶらりおいでよ剣祭」。

11月２日のオープニングセレモニーでは、廣部学長の挨拶に続き、剣祭実行委員会委員長の徳増君が開催の挨拶を行い、くす玉が割られ開会が宣言された。

今年の剣祭は、好天にも恵まれ大勢の人出があった。

各学部棟では研究室公開や、文科系のクラブ・サークル等が活動状況を発表・展示し、ユニバーシティープラザでは多くの模擬店が出店、コミュニティープラザ、講堂、体育館でも各種のイベントが行われた。また、２日には看護学部棟で、学生によるスピーチコンテストも行われた。

（写真は表紙にも掲載・関連記事は２２ページ）

学内ニュース「はばたき」への寄稿を大歓迎！

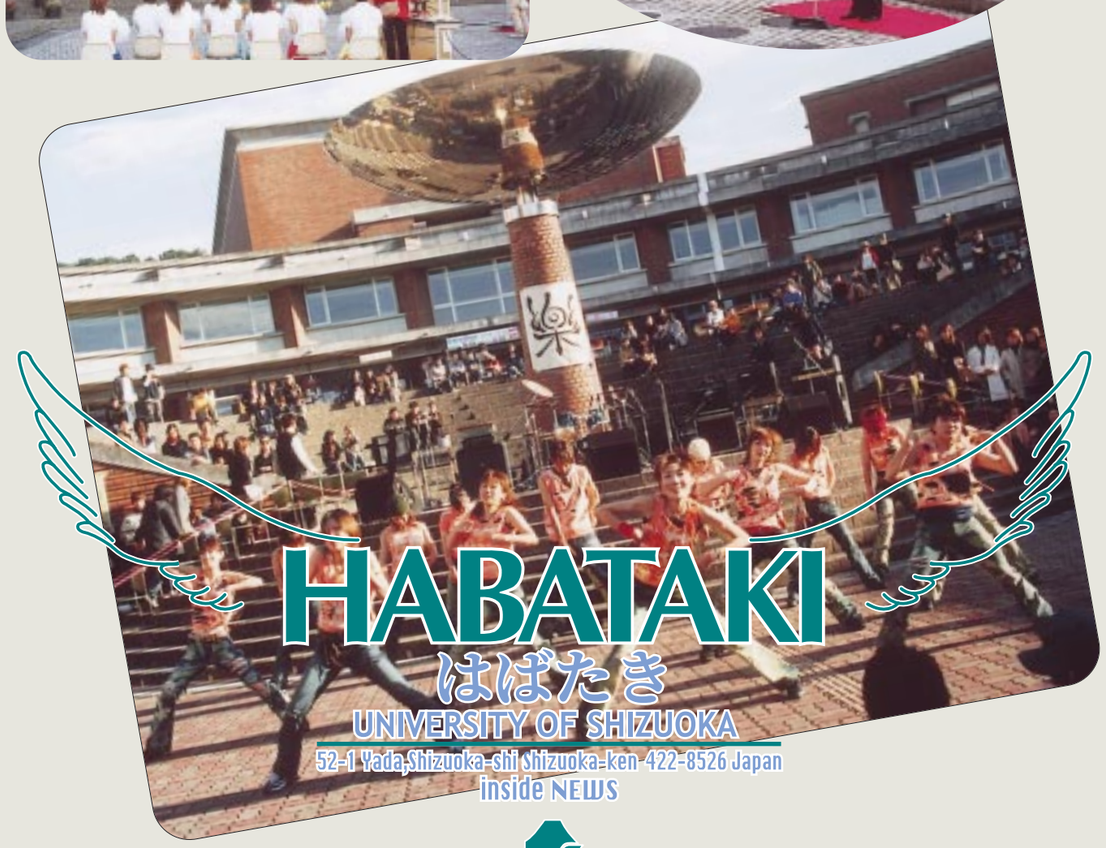
教職員・大学院生の皆様の受賞、研究助成への採択、学会・研究集会の案内、クラブ・サークル、その他寄稿を積極的にお寄せ下さい。大歓迎します。

事務局経営課・企画スタッフ（管理棟２階）法月あてにお願いします。

Ｅ－ｍａｉｌ：ｋｉｊｏ４@gm. ｕ－ｓｈｉｚｕｏｋａ－ｋｅｎ. ａｃ. ｊｐ

企画・編集　静岡県立大学広報委員会　ＴＥＬ　０５４－２６４－５１０３
静岡県立大学ホームページアドレス ： http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp

volume 84
NOVEMBER 29 2002



HABATAKI
はばたき
UNIVERSITY OF SHIZUOKA
52-1 Yada,Shizuoka-shi shizuoka-ken 422-8526 Japan
inside NEWS

●CONTENTS●

21世紀COEプログラム採択…… 1
都市エリア産学官連携促進事業…… 2
国際関係学部の動き…… 3
なぜ県大に芝生公園があるの…… 4
経営情報学部の動き…… 5
大学院ビジネス講座特別講演会…… 6
インターシップ…… 7
しずおか産業・福祉・技術展に出展…… 7
日本フードファクター学会開催される…… 8
第9回バイオメディカル光科学研究会学術集会…… 8
はばたき寄金からのお知らせ…… 9
科学研究費の採択状況…… 11
キャンベル共同計画を日本に導入…… 11
顕彰…… 11
教員の人事…… 11
図書館だより…… 12
韓国大学生訪日研修団との交流会…… 13
看護学部の実習紹介…… 14
研究室・ゼミ紹介…… 15
院生からのメッセージ…… 16
環境学習サポーター養成講座…… 16
留学体験記…… 17
著書紹介…… 18
カリフォルニア大学語学研修に参加して…… 19
薬学バレーボール大会全勝優勝…… 20
研究助成の採択…… 20
高校生が講義を受講…… 21
ぶらりおいでよ剣祭…… 22
谷田風土記76…… 23
第16回剣祭 開催…… 23

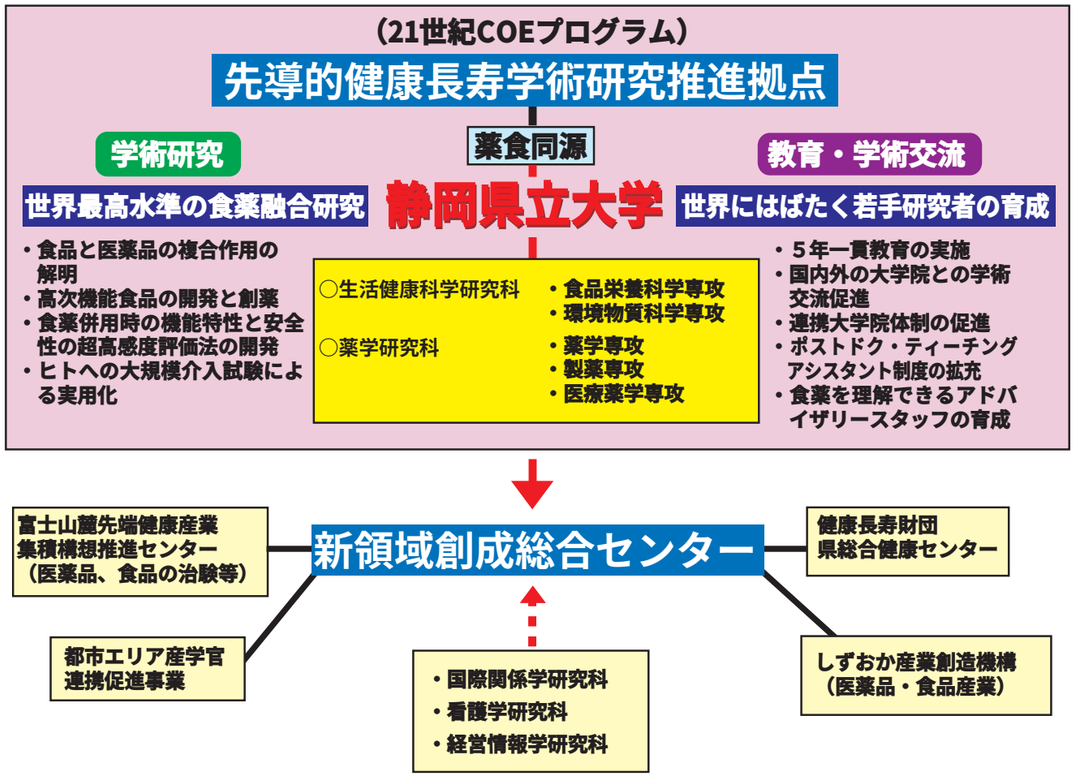
「21世紀COEプログラム」に採択される。

本学大学院生活健康科学研究科および薬学研究科は、「食と薬」を融合した「先導的健康長寿学術研究推進拠点」として、文部科学省「21世紀COEプログラム（旧名称：トップ30）」に採択されました（10月2日発表）。

「21世紀COEプログラム」は、我が国の大学が学問分野毎に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、世界をリードする学術研究を行うとともに、世界に通用する創造力豊かな人材育成を図るため、文部科学省が重点的な支援を行い、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進する目的で、本年度よりスタートした制度です。採択された大学には、国立大学とりわけ旧7帝大（北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州の各大学）が占める割合が高い中（43.4%）、公立大学に対しては9.5倍の競争率でしたが［公立大学から4件（3.6%）採択］、これを突破し、「世界最高水準」の研究教育拠点として認定されました。「先導的健康長寿学術研究推進拠点」は、設定された5領域のうち「学際・複合・新領域」に属し、我が国における「新領域」研究教育拠点の創成を目指すものです。2研究科のみならず本学が一致団結して本拠点の充実発展に御協力頂けることを期待しています。

なお実施計画等の詳細は次号に掲載致します。

（拠点リーダー：木苗直秀・生活健康科学研究科長）

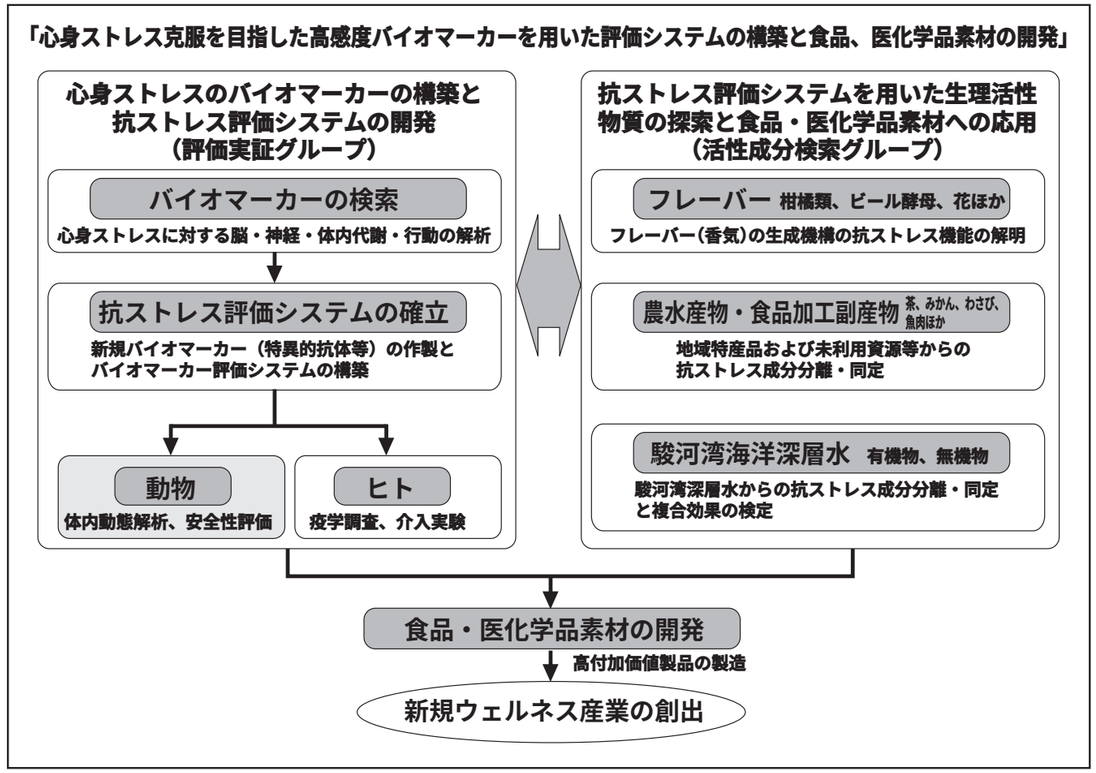


中部都市エリア産学官連携促進事業がスタート！

文部科学省が平成１４年度より「個性発揮を重視して都道府県等の都市エリアに着目し、大学等の知恵を活用して新技術シーズを生み出し、新規事業等の創出と研究開発型の地域産業の育成等をめざすもの」として公募した産学官連携事業に本県の中部エリアが申請した研究課題「心身ストレス克服をめざした高感度バイオマーカーを用いた評価システムの構築と食品、医化学品素材の開発」が採択された。

本事業は「心の時代」と言われる２１世紀を快適に暮らすためストレス克服のための食品、医化学品の学術研究を展開し、産業に活用するものである。

文部科学省、静岡県、静岡市、清水市、焼津市が静岡県立大学、静岡大学、東海大学とともに産業界と連携して事業に取り組むもので、３年間の成果が大いに期待されている。本課題には、「心身ストレスのバイオマーカーの構築と抗ストレス評価システムの開発」と「抗ストレス評価システムを用いた生理活性物質の探索と食品、医化学品素材等への応用」の２つのテーマがあり、研究総括を木苗直秀教授（大学院生活健康科学研究科長）、科学技術コーディネーターを西條了康氏（本学客員共同研究員）と本杉正義氏（発明協会静岡県副支部長）が勤める。なお、コア研究室は静岡工業技術センターと静岡県立大学に、事務局は（財）しずおか産業創造機構に置かれている。



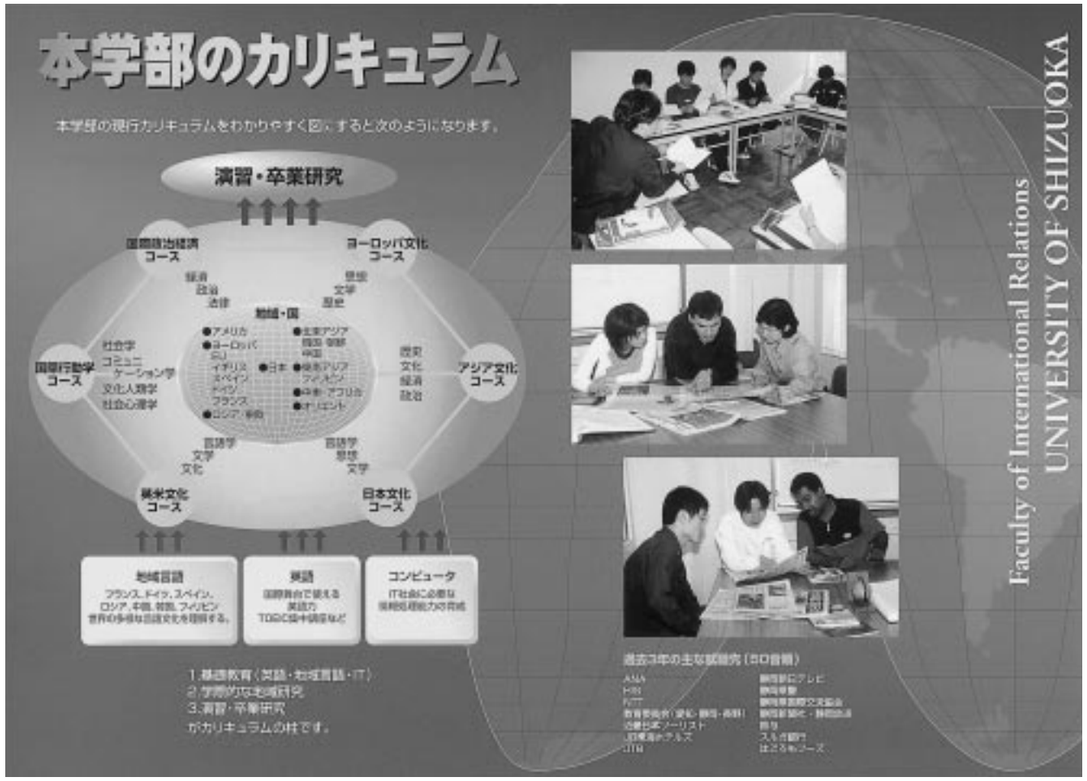
国際関係学部・国際関係学研究科の動き

国際関係学部長：六鹿　茂夫

国際関係学部および国際関係学研究科は、高度な研究機関および教育機関たるべく、研究・学習環境の整備に尽力しています。まず高度な研究機関への取り組みとして、来年度ＣＯＥへの参加を念頭に置いた「現代韓国朝鮮研究センター」設置への動きがあります。また、研究・学習環境の向上を目指して、英語教育やコンピューター教育の改善、就職支援の強化、セクハラ防止、卒業アルバムの作成、留学生へのケアーに努めています。

英語教育に関しては、昨年後期から開始したＴＯＥＩＣ講座の充実化をはかるとともに、「英語強化ワーキング・チーム」（主査は吉村紀子教授）が中心となり、習熟度別クラス編成を導入しました。本年度入学生全員が入学式の翌日にプレースメント・テストを受け、その結果に基づいて習熟度別クラスに分かれて英語の授業を受けることで、英語教育の効率を高めようと言うものです。他方、コンピューター教育に関しては、昨年後期からコンピューター講座（Ｗｏｒｄ／Ｅｘｅｌなど）を開設しましたが、本年度から入学生全員がコンピューター・リテラシーを受講できる体制を整えました。今後のコンピューター教育の在り方については、「コンピューター教育ワーキング・チーム」（主査は渡辺聡教授）が検討中です。

このような試みは、これまでの高度な専門教育に加えて、企業などが要求するいわゆる基礎学力を高めようとするものであり、ひいては学生諸君の就職活動の円滑化につながるものです。国際関係学部は本年度４月に６名の委員からなる就職委員会（島田孝夫委員長）を発足し、学生諸君の就職活動を積極的に支援していくことにしました。同委員会は、既に、卒業延期者の実態調査、諸々の企業で働く本学部卒業生の意識調査、４年生を対象とした就職活動状況、さらには三年生の就職に関する意識調査などを実施するとともに、外務省から外交官を招いて国際公務員についての講演会を開催するなど、学生諸君の就職意識の高揚に努めてきました。さらに、島田委員長と津富宏委員が中心となって、在学生と卒業生のパイプを強化するために、同窓会の立ち上げ準備が進められています。



他方、留学生委員会（水野かほる委員長）は、留学生の集団面接を行って、留学生が抱える様々な問題の抽出に努めるとともに、その実態について教員の理解を得るために、同調査内容を学部教授会や全学の留学生委員会で公表しました。また、セクハラ防止委員会（富沢寿勇委員長）は、セクハラ防止啓発のため、昨年と同様、教員と学生各々を対象とした講演会を開催するとともに、学部のみならず全学用にパンフレットを作成するなど積極的に活動しています。ただ、同問題は学部のみで対処できる問題ではありませんので、予算面におきましても全学的な対処をお願いしたいと思います。

さらに、本年度は広報活動にも力を入れ、高校生諸君に国際関係学部の教育理念やカリキュラムなどよりわかりやすく理解していただくために、ヴィジュアル化を考慮した学部パンフレットを作成し各方面に配布するとともに、学部ホームページの改革に着手しています。

最後になりましたが、「日韓文化交流基金」の「日韓学術文化青少年交流事業」の一環として訪日していた韓国の青年団が、１０月２１日に本学を訪れ、韓国・朝鮮半島情勢に関心を持つ国際関係学部の学生諸君と親睦を深めました。ポスト冷戦の国際関係において、脱国家的（トランスナショナル）な関係の比重が益々増しているなか、まさに時宜にかなった草の根レヴェルの交流であったと思われます。

なぜ県大に芝生公園があるの？

県大の西に隣接した、県民の憩いの場になっている芝生公園の本来の設置目的を皆さんご存知ですか。芝生公園は、大雨の際に、本学や県立中央図書館などの敷地に降った雨水が鉄砲水などとして下流域の民家などを襲わないよう、雨を一旦ため込み、徐々に放水する調整池の役割を果たす、なくてはならない重要な施設なのです。

皆さんも、一度公園の真中に立って、まわりを見渡してみてください。見方によっては大きなタライの中に立っているような気がするかもしれませんよ。

経営情報学部の動き

経営情報学部長　小林みどり

本学部は他の学部と異なり、文理融合学部であることに特徴があります。学部の教員は、それぞれ固有の研究分野で研究を行っていますが、それ以外に、異なる研究分野の教員が、共同で複合分野の研究を行っています。たとえば、行政学、心理学、物理学教員による「環境政策決定における合意プロセスの研究」では、原子力発電所、ゴミ処理場建設問題等にリスク心理学の成果を適用する研究を行っており、経営学、化学教員による「静岡県の環境系ベンチャービジネスの研究」では、経営学、財務、行政、科学・技術の多角的視点から取り組んでいます。また、流通論、コンピュータ教員による「電子商取引の研究」や、行政学、コンピュータ教員による「被災者支援情報システムの開発」など、様々な共同研究が年々盛んに行われるようになってきています。

本学部のもう１つの特徴として、プロジェクト教育を行っていることがあげられます。これは、意欲のある学生に主体的な活動の場を与え、自らが責任をもって企画・運営する経験を積ませること等を目的としています。この１年間に行われたプロジェクト活動としては、大学紹介ビデオ作成、卒業生名簿検索システムの開発、清水東高校定時制情報教育の支援、学部報の編集、仮想美術館&オンライン・リクエストシステムの開発、オープンキャンパスの企画運営等がありますが、なかでも、昨年度スタートした学生ベンチャー事業「えすと」は、学生が経営を実際に経験する貴重な場となっています。「えすと」のメンバーは、１年生から院生までの２９名で、静岡市紺屋町の SOHO静岡でブースを借りて活動しています。活動内容は、IT講習会の運営、商店街イベントの請け負い、静岡県内全大学生向けポータルサイトの構築などです。

オープンレクチュア

学外研修（富士通沼津工場にて）

今年度は７年ぶりにカリキュラムの全体的な見直しを行っています。コミュニケーション能力や英語能力の強化をはかり、基礎ゼミや総合講義などを新たに設置するとともに、学生の個別指導に力を注いでいきたいと思っています。

また、今年度は高大連携事業として、オープンキャンパスの他に、新たにオープンレクチュアとオープンセミナーを計画しました。オープンレクチュアは、学部授業科目の高校生向けのやさしい入門・解説を行うもので、６月に実施したところ、116名の高校生が参加しました。オープンセミナーは、教員の自己紹介を兼ねた自由テーマによるセミナーで、１１月に実施します。

以上、本学部の最近1年間の動きを紹介いたしました。

学生ベンチャー事業「えすと」（紺屋町のSOHO静岡オフィスにて）

学生パネルディスカッション（オープンキャンパス）

チャレンジ精神よ永遠に
―大学院ビジネス講座特別講演会を開催―

昨年秋から沼津市で始まった県立大大学院ビジネス講座も１４年度秋期講座で第３期を迎えることとなり、９月８日（日）に沼津市立図書館において特別講演会と秋期講座への受講相談会を開催した。

特別講演会では、廣部学長のあいさつに引き続き高橋弘日本ジャンボー（株）会長が「チャレンジ精神よ永遠に」をテーマに講演した。

高橋会長は、熱海で家業の酒屋を営む一方、写真の現像の仕事を始めたこと、最近になって新たなビジネスとして日帰りの温泉を始めたことなど、会長自身の仕事を振り返りながら、「時代と共に魅力ある仕事は変わる。同じ仕事を何十年も続けるには余程の理念と用心が必要である」、「不況の今だからこそチャンスはいっぱいある。あえて、捕らぬ狸の皮算用をして、その実現に向けた積極性が必要である。」と述べられ講演会参加者にアドバイスされた。

講演会に引続き、秋期講座の担当講師等による受講相談会を各講座ごとに行い、講座への参加者を募った。

インターンシップ意見交換会 大学院生と３年生が社会を学ぶ！

学生が在学中に実社会で就業を体験するインターンシップ制度は、学生が自分の目で社会を知り、職業観を身につけることが出来ること、また雇用時のミスマッチをさけることが出来ることなどのメリットがあることから近年急速に各大学が取り入れてきている。また、文部科学省、厚生労働省、通商産業省などがこの制度を支援している。生活健康科学研究科ではこの制度が社会の動向を知り、研究面や意欲の生かせるシステムとして位置づけ、平成13年度より博士前期課程1年生を対象に実施している。昨年度は企業主体であったが、本年度はさらに県の試験研究機関にも協力を要請し、実施した。

ご協力頂いた企業、試験研究機関は次の通りである。

三井農林㈱食品総合研究所、日本食品化工㈱研究所、㈱マルハチ村松、㈳焼津水産加工センター、㈱万城食品、清水製薬㈱清水研究所、国土環境㈱、焼津水産化学工業㈱、㈶食品農医薬品安全性評価センター、静岡県農業試験場、静岡県茶業試験場、静岡県工業技術センター、静岡県水産試験場、静岡県環境衛生科学研究所

本年度は大学院生１８名のほか食品栄養科学部の３年生７名が参加した。

７月から８月にかけてそれぞれ１～２週間実務を体験し、９月１９日には、研修先の方々との意見交換の場をもつことが出来た。学生、企業等の参加者から本制度が極めて有意義なものであり、次年度以降も継続すべきであるなどの発言が多く出された。　（生活健康科学研究科長・木苗直秀）

第３回しずおか環境・福祉・技術展に出展

２１世紀を迎えた今、長寿社会の到来、環境問題の深刻化などの大きな課題の解決の糸口とするべく「第３回しずおか環境・福祉・技術展（同実行委員会主催）が９月２７日（金）～２９日（日）にツインメッセ静岡で開催された。

本学からの出展は、薬学部から、環境にやさしい２１世紀の薬づくり（薬品製造化学教室）、食品栄養科学部から、植物繊維の吸収（生理学研究室）、茶の入れ方と抗酸化性（食品衛生学研究室）、海藻アカモク成分の骨粗鬆症予防効果（代謝調節学研究室）、茶カテキンによるピロリ菌の除菌効果（食品学研究室）、プロポリスの成分研究（食品製造工学研究室）、環境科学研究所からは、キチン、キトサンを用いた新素材の開発（化学環境研究室）をテーマに日頃の研究成果を出展するとともに、産学連携コーナーでは県大の最近の産学連携への取り組みや、具体的な連携の方法などについて来場者に説明を行った。

県大で日本フードファクター学会開催される！

日本フードファクター学会(JSoFF)が１１月１５日（金）、１６日（土）の両日にわたって、静岡県立大学看護学部棟13411教室で行われた。この学会は食品因子（フードファクター）の持つ生理機能を、医学、薬学、栄養学、食品化学などそれぞれの学問領域を越えた学際的な観点から明らかにしようとするもので、様々な背景を持つ会員から構成されている。毎年一回国内で学術集会を開催し、今回は第7回目である。ちなみに４年に一度国際会議をInternational Conference of Food Factors (ICoFF)として開催し、ちょうど一年後に東京で3rd ICoFFが開かれる予定である。

さて、今回の学術集会には会員９７名、非会員５２名、学生３８名の計１８７名が参加し、一般講演３９題、シンポジウム６題の講演があり、両日にわたって熱心な討論が繰り広げられた。シンポジウムのテーマは「くだものに期待される生理機能」であり、①「果物の摂取とガンとの関連」佐々木　敏博士（国立健康・栄養研究所）、②「日本産カンキツの健康増進効果」杉浦　実（果樹研究所）、③「モルヒネ鎮痛耐性ラットにおけるグレープフルーツジュースの鎮痛作用増強効果」黄倉崇（本学薬学部）、④「リンゴ由来ポリフェノール成分の解析と応用」神田智正（アサヒビール）、⑤「カシスに含まれるアントシアニンの生理機能」松本　均（明治製菓）、⑥「複合カロテノイドによるガン予防」西野輔翼（京都府立医科大学）、などの注目すべき研究発表が続いた。一般講演においても食品因子の様々な生理機能に関して活発な意見交換がなされた。本学術集会は本学２１世紀COEプログラムの後援をいただいたが、薬食同源に関する基礎研究の振興にも貢献できたのではないかと考えている。なお要旨集は希望者に随時差し上げている。

食品栄養科学部　中山　勉
（日本フードファクター学会
第7回学術集会会長）

第９回バイオ・メディカル光科学研究会学術集会を開催

県立大学におけるバイオ・メディカル光科学の一層の発展と研究者間の情報交換を目的として、平成６年にバイオ・メディカル光科学研究会が発足した。本研究会が主催する学術集会も、第９回を迎えた。

これまでに、特別講演者２０名を迎え、また、学内講演５５題が発表され、毎年度活発な討論がなされている。毎年度出版されている内容豊かな講演要旨・プロシーディング集も第９巻となり総１６５ページを越えた。

本、平成１４年度は秋たけなわの１１月９日に学術集会を行った。特別講演３題、学内からの一般講演６題、今後の発展に向けての討論会を行った。高橋　英嗣先生（山形大学・医学部・第一生理）には”一個の細胞の分光分析：心臓の低酸素イメージングについて”、高橋　倫子先生（岡崎国立共同研究機構・生理学研究所・生体膜部門）には”２光子励起法を用いた膵島におけるインスリン開口放出過程の可視化解析について”、また、伊藤　裕基先生には（日立（株）ハイテクノロジーズ）”生体分子間相互作用解析装置IAsysの基礎技術と応用について”、それぞれ、最新の成果を講演いただいた。続いて、学内から、光科学・技術に関連した最新の研究成果が発表され、活発な討議が行われた。さらに、学術交流ホールに場所を移し、今後の光科学の発展を期して研究者の情報交換が活発に行われた。

来る平成１５年には第１０回バイオ・メディカル光科学研究会学術集会が開催される。これを機会に、より国際的に発展するとともに、バイオ・メディカル光科学研究に役立つ方法論とその成果に関する書籍の特別出版も計画されている。益々の発展が期待される。末尾ながら、本学術集会は日本薬学会東海支部、当大学学長特別研究、２１世紀COEプログラム（文部科学省）の支援を得へ、深謝するしだいである。

バイオ・メディカル光科学研究会事務局
中山貢一、植松正吾

はばたき寄金からのお知らせ

「はばたき賞」が贈られる

11月2日、「はばたき賞」が生活健康科学研究科博士後期課程２年の加治屋勝子さんと、薬学研究科修士課程２年の近藤雅美さんに廣部学長から贈られた。

加治屋さんは、緑茶に含まれるカテキン類の生体膜への作用機構を明らかにし、その内容を発表した論文が、日本農芸化学会英文誌ＢＢＢの論文賞を受賞した。

また、近藤さんは、本年５月にベルリンで開催された第８回国際リポソーム学会でポスター発表を行い、その研究内容とプレゼンテーションが高く評価され、ポスター優秀賞を受賞した。

加治屋勝子さん

近藤雅美さん

学長企画イベント「創造力啓発コンテスト」の入賞者決まる！

「創造力啓発コンテスト」は昨年、本学創立１５周年記念事業の一環として、廣部学長が企画され始まったイベントで、今年は、８名の学生から１３件のアイデアの提案があった。学長は、提案者全員からアイデアの内容の説明を受けるとともに、提案内容に対する改善のアドバイスなどを学生に与えられた。学長による審査の結果、特別アイデア賞に２件、アイデア賞に３件のアイデアが決定し、表彰式が11月２日の剣祭初日に看護学部棟で開催された。

残念ながら今年も学長特別賞に該当する提案はなかった。

（入賞一覧）

賞区分	提案タイトル	氏　名　・　所　属
特別アイデア賞	メッシュシートを使用した広告	酒井美穂（国際関係学部４年）
特別アイデア賞	携帯電話防犯ブザー	下田　亮（国際関係学部３年）
アイデア賞	ペットボトルプレッサー	松浦千草（国際関係学部２年）
アイデア賞	携帯電話ココッチモード	平河　綾（国際関係学部３年）
アイデア賞	まるいこたつ	馬場ひろみ（国際関係学部３年）

＜学長講評＞

本年は昨年に比して応募件数も提案内容の質も高まったといえる。特別アイデア賞の２件には新しいコンセプトが含まれ、かつ実用化の可能性が高い。酒井君は実地調査も行い、きめの細かい考察を行っている点も評価した。下田君のアイデアはいずれ必ず実現するであろう。技術的可能性の打診を含めて早期に専門業者への”売り込み”を勧めたい。アイデア賞３件は、新規性には乏しいが実用性がある点を評価した。設定課題に対する応募（奨励賞）が今年もなかったが、実社会では圧倒的にこのタイプが多い（問題解決型）ので、今後は是非挑戦して欲しい。学長特別賞のハードルは極めて高く設定しているが当選者の出現を心待ちにしている。両年ともに自然科学系部局の学生諸君からの応募が皆無であったのは懸念材料である。

第６回学生文芸コンクールの入賞作品決まる！

今年度の文芸コンクールでは文芸部門として、小説、紀行文、詩、短歌、俳句を、また、評論部門として指定課題「これでいいのか日本」「新しい大学づくり」を募集したところ、文芸部門で**20**名から**41**作品（小説**8**・紀行文**3**・詩**16**・短歌**2**・俳句**11**）、評論部門では**1**件の応募があった。

はばたき寄金運営委員会委員の先生方などによる審査が行われ、次のとおり入賞作品が決定した。

表彰式は、「はばたき賞」、「創造力啓発コンテスト」と同じく**11**月**2**日に行われ、廣部学長から賞状と副賞が贈られた。

（入賞一覧）

部門	賞区分	作　品　名	氏　名　・　所　属
文芸	優　秀　賞	小説　　彼岸花	平岩　愛（国際関係学部２年）
	佳　作	小説　　怪盗イカロスの挑戦	木下裕加（生活健康科学研究科修士２年）
		小説　　監獄	伊藤　愛（経営情報学部２年）
		小説　　シャカルの実	中村紘子（国際関係学部２年）
		小説　　桜の雨　―緋色―	松永寛子（経営情報学部３年）
		紀行文　水の都から	山崎奈津子（国際関係学部２年）
		短歌　　夏のうた	吉田美鈴（看護学部３年）
		俳句　　白昼夢	小林桃子（国際関係学部４年）
	努　力　賞	紀行文　EUSKADI～バスクの地	石井望実（国際関係学部４年）
		詩　　巡り回るモノ達	千田清智（経営情報学部１年）
評論	優　秀　賞	指定課題 「これでいいのか日本」	崔　鍾碩（国際関係学研究科研究生）

第５回学生スピーチコンテストを開催

今年度のスピーチコンテストが、１１月２日に開催された。今回は、『FIFAワールドカップを見て思ったこと』をテーマに、英語の部（日本人学生）に２人、日本語の部に５人の参加があった。入賞者は次のとおり。

［英語の部］

賞区分	氏　名	所　属
優秀賞	山村和也	国際関係学部４年
優秀賞	山下華名子	国際関係学部３年

［日本語の部］

賞区分	氏　名	所　属
最優秀賞	張　運	国際関係学部１年
優秀賞	王　超群	経営情報学部３年
優秀賞	文　慧正	国際関係学部４年

張　運さん

短期交換留学生へ奨学金を授与

本学と交流協定を結んでいるフィリピン大学へ派遣される短期交換留学生の酒井美穂さん（国際関係学部４年）とモスクワ国立国際関係大学へ派遣される中村映美子さん、山崎奈々さん（共に国際関係学研究科修士２年）に廣部学長から奨学金を授与した。

廣部学長から奨学金を授与

平成１４年度　科学研究費採択状況

＜追加採択分＞（既採択分は前号に掲載）

●基盤研究（B）

西垣　克　　看護学部教授　　看護動作におけるバイオメカニクスの研究

●基盤研究（C）

小林　みどり　経営情報学部教授　　サイクルデザインとパスデザインに関する研究

根本　清光　　薬学部助手　　非神経組織における神経栄養因子及びその受容体の発現機能の検討

●萌芽研究

小林　裕和　　生活健康科学助教授　外来選択マーカーを用いない葉緑体遺伝子導入系の樹立

＜短期大学分＞

●基盤研究（B）（２）継続分

佐々木隆志　社会福祉学科教授　　イギリスにおけるショップモビリティと民間団体福祉サービスの総合的実態調査研究

●基盤研究（C）（２）継続分

三富道子　　社会福祉学科助教授　　イギリスの痴呆症患者を対象にする介護技術に関する研究

佐々木隆志　社会福祉学科教授　　介護老人保健施設における終末ケアの実証的研究

●若手研究（B）新規採択研究

小川亜矢　第一看護学科助手　　山間地における介護サービス提供者と住民の実証的研究

キャンベル共同計画を日本に導入

国際関係学部の津富宏助教授は、この９月に、キャンベル共同計画刑事司法グループの日本語版ホームページを国際関係学部のサーバーに開設された。

(http://fuji.u-shizuoka-ken.ac.jp/~campbellcj/index.html)

キャンベル共同計画は、教育、福祉、刑事司法などの社会政策の分野における、政策やプログラムの効果に関する研究をレビューし、政策担当者や実務家に対して、どのような政策が目標の達成に有効であるのかという情報をインターネットを通じて供給するという国際的取組みである。

津富助教授は、刑事司法グループの運営委員として海外の研究者とこの計画の推進に当たっておられ、すでに医学の分野では、コクラン共同計画という同様の計画が大きな成功を収めており、日本にも導入されているが、津富助教授の試みは、この社会科学版に相当するキャンベル共同計画を日本に初めて導入するもので、成功が期待されている。

顕　彰

食品栄養科学部の吹野洋子助教授が１１月１３日、第４９回日本栄養改善学会学術総会、全国栄養改善大会にて、平成１４年度栄養士養成功労者厚生労働大臣表彰を受賞した。この受賞は、多年にわたる栄養士・管理栄養士養成の貢献とその教育研究、地域社会の栄養・健康に関する教育・啓蒙活動などの功績が認められたものである。

吹野洋子助教授

教員の人事

採　用

（１０月１日付け）

永谷 実穂　　短期大学部第二看護学科助手

（１１月１日付け）

竹中 厚雄　　経営情報学部助手

図書館だより

OPAC（おーぱっく）から始まるILL（あいえるえる）（相互利用）

～他大学からの図書・文献の取り寄せがオンライン端末からできます～

今秋より静岡県立大学附属図書館のOPAC（静岡県立大学附属図書館横断検索）のホームページからオンライン図書貸借および文献複写の依頼ができるようになりました。

図書館のホームページ　http//www.u-shizuoka-ken.ac.jp/～library/からOPACのアイコン OPAC をクリックするか、またはブラウザのアドレスバーにhttp//sts03.u-shizuoka-ken.ac.jp/surf/operate/japanese/su_od_index_kendai.htmlと入力してください。

●OPAC画面のメニューから、図書の貸借は「ILL貸借依頼」、文献複写は「ILL複写依頼」を選びクリックします。次画面で利用者IDパスワードを入力するとログインできます。

①依頼できるのは県大図書館に所蔵のないものです。（最重要）

②はじめての方は、まず図書館カウンターでパスワードの発行を受けてください。

③県大短大部の図書はオンラインで依頼できません。直接短大に借りに行くか、２キャンパス相互利用制度（無料）をご利用ください。

図書貸借・文献複写とも有料（送料等）です。

●詳細マニュアルを図書館カウンターで配布しています。利用の際は必ずご覧ください。

また、このマニュアルは図書館ホームページからもダウンロードすることができます。

学術情報検索室を開放しました

学内専用サービス（文献サーバー（MEDLINE、CINAHL）、NACSIS―IR、オンラインジャーナル、Oxford University Press 刊行電子ジャーナル）をはじめとしたインターネットで提供されている様々なデータベース等を図書館内でも利用したいという要望に応えて、図書館１階にある旧マイクロ・CD室の名称を、学術情報検索室と改め、インターネットに接続可能な端末９台とプリンタ２台を設置し、１０月１日から学内の利用者に開放しています。

学内専用サービスの利用や、web上で提供されている他の情報機関等へアクセスし、学術情報の探索、文献検索を行うことができます。公序良俗に反するサイトの閲覧やゲームなど目的外の利用は出来ませんし、ワードやエクセルなどのソフトウェアもインストールされていませんので、開放目的を掌握の上、図書館カウンターで申込をしてから利用してください。

利用方法については、図書館HPや学内掲示板などでもお知らせしていますが、詳細はカウンター職員にお尋ねください。

韓国大学生訪日研修団との交流会を開催

去る１０月２１日、日韓両国政府が策定した「日韓学術文化青少年交流事業」の一環として来日した韓国大学生訪日研修団一行２１人が本学に立ち寄り、県大生約５０人との間で交流会を開催した。韓国語を学ぶ本学学生と日本語を専攻する韓国側学生による相互スピーチから始まった交流会、談笑しながらの昼食会、自由な個別交流などで盛り上がった。六鹿茂夫国際交流委員長(国際関係学部長)からは、日韓両学生に対するメッセージもあった。

ワールドカップ(W杯)があった２００２年は日韓国民交流年にあたったこともあり、新聞や放送の取材も多く、報道による本学の国際交流における広報効果も十分にあった。新しい日韓の友好親善協力関係を構築ことを目的とした本事業は、外務省の外郭団体である日韓文化交流基金への協力事業でもある。

最後に、交流会に参加した院生の感想を以下に掲載する。

(国際関係学部教授　伊豆見 元)

日韓の交流討論会で思ったこと

大学院国際関係学研究科比較文化専攻１年　北村香葉子

「独島（日本名：竹島）の領有権問題について、日本人はどう考えていますか」

討論会では、他にも在日韓国・朝鮮人問題や日本の性犯罪についてなど、日本側が答えるのに戸惑ってしまうような、率直な質問が目立った。

私は２０００年４月から２００１年３月までの１年間、ソウルで語学留学をした経験がある。その際には、１９９８年から段階的に始まった日本大衆文化開放の影響なのか、日本の歌手や映画など日本文化に高い関心を持つ韓国の大学生と知り合う機会が多かった。

日本でも２００２年日韓共催W杯の影響で、韓国の芸能人や韓国グルメ、エステツアーの人気が高まっている。W杯前の今年２月に両国で放映された日韓合作ドラマ「フレンズ」の韓国側の主役俳優であるウォンビンのファンになったことや、韓国旅行で興味を持ったことをきっかけに韓国語の勉強を始める若い女性も多い。歴史認識問題や竹島領有権問題など政治的な関係だけではなく、個人レベルでの交流が増えたことで互いの文化を身近に感じ、それらを共通の話題として話し合える時代となった。

その一方で、韓国の大学生が討論会で投げかけたように、日韓が抱える問題が解決したわけではない。私が今回知り合った安東の大学に通う金さんは、日本に来る前「日本人は利己主義で計算高い」といったイメージを持っていたそうである。だが静岡でのホームステイを通して、日本人の温かさや親切に触れ、感動したと話していた。

今回の韓国大学生訪日団との交流で、W杯を終えた今、これからの韓国との関わり方について考えるいい機会となった。今回の訪日を機に日本語を勉強することにしたという金さんに、近々メールをしてみようと思う。

看護学部の実習紹介

初めての病棟実習

基礎看護実習＜看護学部１年生＞

看護学部では、入学して3ヶ月で初めての病棟実習が行われます。今年は7月上旬に静岡県立大学で実施されました。

実際に病院で実習を受けることで、学生にとって多くの新しい発見があったことと思います。病棟実習では病院の構造や看護のシステム、入院患者さんに関することなどの説明をうけた後、学生間に話し合いを通し、自分たちの疑問をお互いに解決し合いました。

＜学生の感想＞

新調したユニフォームを着て病院を歩くと新しい発見がいっぱい！

病院を内側から見るといろいろなことがわかり、緊張するけれど楽しい実習です。

わからないことは、看護師さんに質問したり、グループで話し合って解決しました。

看護師さんの後ろについて歩いて仕事を見学させてもらったが、次に何をするかがすべて頭に入っているようで驚いた。

看護師さんについて歩いて、その歩く速さが速いのに驚いた。初日はついて歩くのにかなり疲れた。

病院内で、看護師という仕事がどれだけ重要で責任があるかを再認識した。

達成感を得ることができた！

地域看護実習＜看護学部４年生＞

地域看護実習は４年の前期に行われました。

この実習では健康を維持・増進するための実際について学ぶために、県内１０数か所の市町村保健センターや県保健所で実習をします。

実習では、住民の皆さんの意見を取り入れた健康学習会を、企画・運営します。

＜学生の感想＞

媒体の作成・当日のシナリオ作りなど準備は大変ですが、実施後は参加した皆さんから「また来てね」とか「とても面白く勉強できたよ」といった暖かい声をもらうことができ、達成感を得ることができました。

比較的、自分達で自由にいろんなことをさせてくれたので、のびのび実習ができた。

さまざまな施設を見学できたり、いろいろな住民、職業の人と接することができてよかった。

研究室・ゼミ紹介

「まんてん」[*1]と思いを同じくして

細胞生理学研究室　三好泰博

私達の研究室では宇宙生物学と細胞生理学の二つの分野の研究を行っています。
２１世紀、人類のフロンティアである宇宙開発に向けて私達の夢は大きくはばたいています。日、米、露、欧など世界１５ヶ国の協力のもと地球を恒常的に周回する国際宇宙基地が２００６年には完成し、種々の宇宙実験が可能になります。またこの基地を足場に２０２０年には人類を火星に送りこもうという計画も進められています。そして２１世紀中頃には観光用宇宙基地も完成し、多くの人々が宇宙へ旅することも可能になるでしょう。宇宙基地の窓辺で青い地球を眺めながらビールを飲むなど想像しただけでも心おどる思いです。しかしこれらの夢を実現させるためにはこれらの基地や火星でどのようにして食物や飲物、酸素などを確保するか、食品栄養科学を研究する私達が解決しなければならない問題です。　一方植物細胞にはその体積の９５％以上を占める液胞があります。この植物細胞最大の細胞小器官がどのようにしてでき、どのような働きをするのか２１世紀の今日でもよくわかっていません。動物細胞には見られない植物細胞固有の細胞小器官として葉緑体や細胞壁があり、これらが地球上の生命、特に人類にとって必要欠くべからざる重要な働きをすることは皆様もよくご存じと思います。液胞もまた植物細胞に特徴的な小器官であり人類にとって非常に重要な働きをしてくれているものと思われます。私達はこの液胞について研究を進め、２１世紀に向けて新しい細胞像を確立しようとしています。
私達の研究室のモットーは“人のやらない研究を楽しみながら行うこと”ですが、研究室には“美味しいそばを食べる会”、“美味しい地ビールを飲む会”、“温泉を楽しむ会”、“青いバラを作る会”など各種の同好会があり、楽しく研究するための大きな支えになっています。

注[*1]　目下放送中のＮＨＫテレビ朝ドラの主人公の名前

「書を持って街へ出よう」

経営情報学部組織論研究室（鈴木竜太ゼミ）

組織論研究室では，経営組織論を中心に勉強すると同時に，フィールドワークの手法を学び実践しています。現在４年生１１人，３年生１０人の若いゼミです。
「何を研究するの？」「いい質問です！！」
共同研究では，普段自分たちが気になることを取り上げ，学生という視点から考察していきます。１期生は昨年『口コミに関する研究』、２期生は現在『クラブ・サークルのコンフリクトに関する研究』を行っています。現在のゼミでは４年生が卒業論文の進捗状況の発表、３年生が共同研究を進めています。共同研究の前は先生の講義があり、そこで経営組織論と社会調査の基本を学んでいます。共同研究や卒業論文では，机の上での研究というよりは，研究室の外へ出て調査を行う，フィールドワークによる研究を行っています。卒業論文のテーマも組織論だけにこだわらず，洋菓子や喫茶店，商店街，ライブハウスなどそれぞれのフィールドに出て社会調査を行っています。
「なんか厳しそうなゼミだね・・・」「そんなことないよ。」
このゼミでは厳しさの中にも楽しさがあります。みんなでボーリングやカラオケなど遊びにも行くし、ソフトボール大会もします。夏にはバーベキューも行いますし、飲み会も何回か開いています。また、ゼミ合宿では共同研究、卒業論文の発表を進めながらも、メリハリを持って遊ぶことができました。
「みんな仲がいいんだね。」
そうです。厳しさの中でゼミ生がお互い励ましあい頑張っていることで、絆が強くなったのです。厳しさだけのゼミではなく、楽しくもあることで思い出としても永遠と心の中に残っていくのです。これからも組織論研究室では、厳しく楽しいゼミの精神を大切にしていきます。
詳しいゼミの様子はHP<http://ai.u-shizuoka-ken.ac.jp/~suzukir/>をごらんください。

院生からのメッセージ

障害独自の視点から

国際関係学研究科修士課程１年　堀　智久

私は現在、国際関係学研究科というところに在籍しており、障害に関わることについて学んでおります。一般に障害といえば、医療とか福祉や教育の領域の問題として捉えがちですが、私の場合はそれとはちょっと違っています。障害学（Disability Studies）という学問領域から、障害独自の視点によって、障害者の生のあり方、ひいては障害者をとりまく社会のあり方について考えているのです。
私はこの大学にくる以前、学部生の時は、教育大で特殊教育を専攻しておりました。私自身が難聴の障害をもっているということもあって、その当時から障害について興味があり、特殊教育を学べるところを選択したのです。障害児教育という領域では、障害児の病理や心理、それから教育実践などを学ぶわけなのですが、それらの勉強はどうも私の中に、しっくりしきれていない部分を残していました。というのも私にとって、教育の枠組みで描き出される障害者像は、どこか健常者中心的な見方がア・プリオリに織り込まされていて、こう言ってよければ、‘創られたうさんくさい障害者’の枠を超えないものだったからです。
障害学（Disability Studies）と私との出会いは、石川先生が編集されている、『障害学への招待』というタイトル（その名の通りである）の本を手にしたことがきっかけでした。私が初めてこの本を読んだとき、目から鱗が落ちるような感覚を体験せざるを得ませんでした。とりわけその中でも、「‘私が’でなくて、‘あなたが’なんとかしてくれば済む（ことがあるではないか）」という「社会モデル」の主張は、今まで「障害の克服・改善を至上命題とする」特殊教育に浸かってきた私にとって、不意をつく、同時にもっともな主張に思えました。
修士論文では、障害を持つ子どもと親の関係、とりわけそこに治療が介在するケースについて取り扱うつもりです。具体的には、自分の手術をまだ意思決定できないような子どもに対して、親がどのようにして自分の子どもの身体に関わっていくか、介入していくのかという問題です。今は、「親の会」に参加させていただいたり、「聞き取り調査」を依頼したりすることによって資料を集め、分析するといった作業を行っています。
最後になりますが、私の指導教官である石川先生をはじめとして、助手さん、ゼミ生の方々にはとても親切な方が多く、いつもお世話になっております。私にとって学問も楽しいのですが、ゼミでの飲み会や合宿に参加することも、欠かすことのできない楽しみの一つなのです。

「親の会」でのフィールドワーク（後列大人の右から4人目が筆者）

環境学習サポーター養成講座を開講

環境科学研究所は、「しずおか県民カレッジ連携講座」を、**10**月**5**日から**12**月**7**日の間に**8**回開講している。本講座は研究所の教員が、私たちの生活に直接・間接的に関わる環境問題をとりあげ、その生態系に及ぼす影響、人間の健康への影響についての最新の知見を紹介し、地域の環境保全活動への取り組みや、学校、公民館での環境講座のサポーターとしての活動に役立てていただく講座である。本年とり上げる演題・演者は下記のとおりで、約**50**名のサポーターが毎回熱心に聴講している。

1. 環境三大噺―地球温暖化・ごみ・化学物質―　　横田　勇（**10**月**5**日）
2. ダイオキシンの生体影響について　　池田雅彦（**10**月**12**日）
3. 新型輸入感染症の予測と環境レベルでの対応の問題点　　大橋典男（**10**月**19**日）
4. 室内空気中の有害物質～その発生と毒性～　　大浦　健（**10**月**26**日）
5. 土のはたらき　　相馬光之（**11**月**9**日）
6. 水道水の安全性　　杉山千歳（**11**月**16**日）
7. 活性酸素とお茶　　吉岡　寿（**11**月**30**日）
8. 高度情報化がおよぼす環境影響について　　牧野正和（**12**月**7**日）

国境を越えて…

―留学体験記―

国際関係学部４年　姜　元武

私は中国山東省からの留学生で姜元武と申します。国際関係学部の４年生で，来日して今年で５年目になります。現在，静岡市に住んでいますが，東京にはこれまで何回か行ったことがあります。東京に行って渋谷や新宿にある大画面のテレビを見るたびにいつも思い出すことがあります。それは中国で初めてテレビを見たときのことです。今でこそ中国の各家庭にカラーテレビが普及していますが，私の記憶では、中国の一般家庭に白黒テレビが入ったのは８０年代に入ってからだったと思います。私の家でも私が５歳の頃にテレビがやってきました。当時の中国のテレビ番組の内容はあまり覚えておりませんが、なぜか日本の「おしん」というテレビドラマだけは今なお印象に残っています。ドラマの内容は子供の私にとっては難しいものでしたが、夕飯の後、テレビを囲んで「おしん」を見ながら一家団欒していたことは今でも忘れられません。その後、「鉄腕アトム」や「一休さん」、「ドラえもん」などのアニメ番組が私たち子供の間で大人気となりました。その頃から私は「日本」という国に対して、子供なりの「新鮮感」と「憧れ」を持つと同時に，一方では、テレビや映画などで度々放映される戦時中の「日本軍」のイメージから「日本人イコール怖い」という印象が子供の頃の私の中に強く存在していました。いたずらをしたときなど、よくおばあさんから「今度いたずらをしたら、日本人につれて行ってもらうよ」と本気で叱られたことを今でもよく覚えています。それは当時の私を「金縛り」にさせる一番良い方法だったのです。

そういった私が日本に留学に来るきっかけとなったのは、１９９７年の夏にボランティアの英語通訳者として、APEC国際博覧会に参加し、そこで多くの外国人に出会い、大きな刺激を受けたことです。その時から、違う世界に対する興味と関心が高まり，母国と異なった世界の文化や社会を体験することで、自分の視野と見識を広めたいと思

心の支えは家族の愛です。（私、父、母）

うようになり、私にとって最も身近な国であった日本への留学を決心しました。そして１９９８年、小さい頃から抱いていた「憧れ」や「恐怖」、「嫌悪」といった複雑な気持ちを伴って、私は中国と「一衣帯水」の隣国日本にやってきました。

来日当初は，高い物価や言葉の問題などがあり、私も他の留学生の皆さんと同じように様々な苦労を体験してきました。ものごとがうまく行かなかったときやホームシックにかかってしまったときには、一人で泣いたこともあります。しかし、これまでの留学生活すべてが寂しく，苦しい思い出ばかりであったわけではありません。多くの友達や親切な日本の人々に恵まれてここまで留学生活を続けることができました。日本人との交流では、言葉や文化の違いが障壁となることがありますが、逆に、そういった違いを乗り越えた時にこそ、本当に大切と思える親友を作ることができるのかも知れません。楽しいときや悲しいとき、嬉しいときや悔しいとき、友人はいつも私とすべてを分かち合ってくれました。国境を越えて、友人と互いに語り合い、刺激し合うことで、これまで共に成長することができました。

私は入学以来、大学近くのある居酒屋でアルバイトをしています。家族経営の小さなお店です。そこの人たちはとても親切で，よく私に「私たちは小さい時にあまり教育を受けていないので、元武の勉強の助けは何もしてあげることはできないけれども、日本にいる間はいいものをたくさん食べさせてあげるから栄養をたっぷり取って、体を壊さないで一生懸命勉強してね！」と言ってくれます。私はこの飾り気のない温かい言葉にいつも胸がいっぱいになります。雨の日にはバイトが終わると，そこのお父さんはいつも車で私を家まで送ってくれます。家に帰ってかばんの中を見ると、店のお母さんが翌日学校で食べる弁当を作って入れてくれていることもしばしばありました。私が初めて帰国することになったときは、お父さんとお母さんは心配して、朝早くから車で私を静岡から成田空港まで送ってくれました。こうした数々の親切を受けているうちに、私は自然に二人をお父さん、お母さんと呼ぶようになり、知らず知らずのうちにその家族の一員となっていました。また別の日本人の家族は、お正月に家に招待してくれて一緒におせち料理を食べたり、初詣に連れていってくれたり、また、夏には花火や祭りに連れていってくれ、わざわざ私に浴衣を作ってくれたりもしました。

私は年に一度帰国しますが、中国に帰るといつも、家族、親戚、友人たちに、これら日本での貴重な体験を話しています。そして私は自信を持ってみんなに、「日本人は決して怖い人たちではないよ。心が優しくて、皆と仲良くしたいという強い気持ちを持っているんだよ。」と伝えています。中国の人たちにも日本人の本当の気持ちを伝えたいと思っているからです。

私は幸運にも人生のもっとも多感で活動的な時期に平和と自由を愛する国，日本に留学することができました。学業以外の時間では地域の子ども達に英語と中国語を教えながら、草の根の交流を行っています。大学では国際関係学部で英語学を専攻していましたが，研究を進めるにつれ、しだいに国際情勢に関心を持つようになり，特に，昨年の米国同時多発テロとその後の国際社会の変動の様子を目の当たりにしてからは，平和のありがたさを痛感すると同時に，地域間紛争や国家間の安全保障問題に強い興味を抱き，国際政治について専門的に研究したいと考えるようになり、来春大学院に行くことを決めました。分野を変えて、進学することで多くの壁にぶつかると思いますが，困難を恐れない勇気、そして目いっぱいのやる気と熱意を持ちながら、これからも自分の目標に向かって一生懸命努力していきたいと思います。

留学生の仲間と

本学教員からの著書寄贈

次の先生の著書を図書館に寄贈していただきました。(平成１４年７月以降)

◎祐田 泰延 名誉教授（薬学部）

・**Control and Diseases of Sodium Dependent Transport Proteins and Ion Channels**（請求記号 491.4/C 86　２階書庫配置）

◎伊勢村　護、小国　伊太郎 教授（食品栄養科学部）

・**茶の機能：生体機能の新たな可能性**（請求記号619.8/C33　２階閲覧室配置）

◎梅本 哲也 教授（国際関係学部）

・**ブッシュ政権の国防政策**（請求記号392.53/Ko 73　２階閲覧室配置）

著書紹介

高木 桂蔵 教授（国際関係学部）

単著　ビデオ『暮らしの風水学』住環境風水研究会刊

建築編・基本編・応用編　合計３巻（７，９，１１月逐次刊行）

カリフォルニア大学バークレー校での語学研修に参加して

国際関係学部　２年　森　まり絵

高校時代から、カリフォルニア大学に興味というか憧れを抱いていたこともあり、私はとても安易に今年の夏のバークレー行きを決めてしまった。申し込みから出発までの１ヶ月半は、準備とテスト勉強、レポートに追われて嵐のような忙しさだった。英語のコースの申し込みの際のトラブルに始まり、ビザの取得、寮の予約、航空券の確保、海外旅行保険。その全てを自分自身でやらなければならなかった。特に私は申し込みの時期が遅かったために何もかもがギリギリで、様々な不安を抱えたままに出発の日は来てしまった。

サンフランシスコ国際空港に降り立ち、タクシーとBARTという高速地下鉄を乗り継ぎ、バークレーに到着。その夜から滞在することになっているTelegraph Commons（以下TC）という民間寮は意外にも繁華街に面した通り沿いの普通のビルだった。おまけに中から鍵がかかっていて入れず、インターホンもない。寮の前にある公衆電話は壊れていた。散々なスタートだった。結局、長いこと待ってやっと中から人がでてきて、私を寮に招き入れてくれた。

入ってしまえば、それからのTCでの生活は快適だった。学校まで徒歩１０分くらいと便利だったし、食事はつかないが、各階に共同のキッチン、シャワールームとトイレが備わっており、各部屋には冷蔵庫もあったので食には困らなかった。私は毎日、近所のスーパーで買い物をして、自炊していた。日本と違う食材もあれば、日本食の食材も手に入るので快適だった。

バークレーでの授業はとても充実したものだった。１クラス１０人程度の少数精鋭の授業で、カーリーンとアニースという２人の先生が、月曜から木曜の毎日、午前と午後の授業を受け持ってくれた。午前中はReading、午後はConversationという２部構成で、それに加えて毎週、課外授業としてオークランド美術館やフィッシャーマンズワーフ、最終週にはサンフランシスコ現代美術館を訪れた。

Readingの授業は、TIME誌の記事を読み進めながら、その記事について話し合いをするという形式で、どのテーマもとても興味深かった上に、Readingの手法も身に付き、有意義だった。

Conversationの事業は、日本では受けたことのない新しいタイプの授業だった。『会話』というものをどのように始め、どう構成して、どう終わるのかを細かく分析した後、その一つ一つのステージで役立つフレーズや接頭語、イディオムやスラングについて学んだ。

どちらの授業にも共通して言えることは、『参加』が求められるということだ。その場に存在しているだけでは『参加』にならない。自分の頭で考えて、自分の意見を人に伝えて初めて『参加』となる。そして、それは授業だけに限らず、アメリカでの生活全てにも当てはまる。何か困ったこと、分からないことがあったら、自分の存在をアピールして助けを求めなければ誰も助けてはくれない。厳しいようだけれど、これはアメリカではごく普通のことだった。

クラスメートにはいろんな人がいた。私と同じ大学生、専業主婦の方、仕事で英語が必要になり、語学研修に来たというサラリーマンの人、この後アメリカの大学院に入学するための準備としてきている人、バークレーの正式な留学生。国籍は日本と中国、台湾がほとんどだったけれど、私は台湾人の女の子といつも一緒にいて、できるだけ日本語を話す機会を作らないようにした。

三週間という期間はとても短く、あっという間に過ぎていった。終了してみて、確かに大変なことはいっぱいあったけれど、私はとても満足している。もし、来年参加を希望する人があるのなら、私は心からおすすめしたいと思う。

第56回関西薬学生連盟バレーボール大会で全勝優勝!!

静岡県立大学バレー部

この夏、８月１０日から１３日まで、愛知県体育館で行われた第５６回関西薬学生連盟バレーボール大会において、本学から出場した県大バレー部・女子チームが全勝優勝を果たしました。本大会は歴史のある大会で、薬学生が年に一度、様々な運動、文化活動をする大会の一環として開かれます。優勝は、静岡薬科大学時代には何度かありましたが、今回の優勝は、第５２回大会の優勝に続き、静岡県大が始まって以来２回目となります。今回は、８勝０敗、全勝優勝という快挙を成し遂げました。全勝優勝は薬科大学時代から数えてもおそらく初めてでしょう。編成は、過半数が薬学部、それに本学他学部も加わったチーム（１～３年生で編成）でした。大学全体として喜びたいと思います。監督は薬学部・微生物学教室の黒羽子孝太先生、指導は経営情報学部４年・天野勝之君、キャプテンは薬学部３年生の進野和子さんです。

薬学部・生化学教室　教授　鈴木康夫
（元静岡薬科大学バレー部員）

研究助成の採択

◎科学技術振興事業団戦略的創造研究推進事業（クレスト）「糖鎖の生物機能の解明と利用技術」
　研究代表者：鈴木康夫教授（薬学部・生化学教室）
　採択課題名：「ウイルス感染における糖鎖機能の解明と創薬への応用」
　期間：５年間（予定）

◎2002年度 昭和シェル石油環境研究助成金
　環境ホルモンの二次副生成物の研究
　食品栄養科学部　助手　久留戸　涼子
　共同研究者　寺尾良保、塩澤竜志

高校生が講義を受講
―高校・大学間の連携の試み―

静岡県立静岡東高等学校との間で昨年度から始まった、高校生を特別聴講生として本学に受け入れる高校・大学間の連携の試みは、本年度も引続き開催されており、前期においては、静岡東高等学校から１３人、静岡中央高等学校から２人で、合わせて２校から１５人の生徒が国際関係学部および経営情報学部で受講を行った。

講義を担当した教員は、高校生の受講態度は大変まじめかつ熱心なものであり、本学学生にもよい刺激となっているのではないかと述べられている。

静岡東高校においては、１０月２８日に、多くの生徒・教員を集めて、生徒による報告会が開催された。

なお、現在は後期の受講生５人が国際関係学部において受講中である。

《受講を終えての感想》

静岡東高等学校　３年　原田　緑
（経営情報学部　自治体経営論を受講）

私は政治や経済に関することにとても興味があり、中学生の時は公民の授業が、高校生になってからは現代社会の授業が大好きで、それらのしくみ、役割、働きなどをもっと詳しく知りたいと思い、身近な自治体の経営についてとりあげた北大路先生の講座を希望しました。最初は、大学３年生に混ざって、また専門用語の波にとまどい、内容理解に不安を感じたりもしましたが、毎受講後、聞き逃した説明や、少しでも疑問に感じた論題、分かり辛かった見解など、些細なことでも必ず質問して、納得してから帰るようにしました。先生は１つ１つ丁寧に分かりやすく教えて下さって､知識が深まるにつれて、次週の講座が、より、楽しみになりました。

政策評価では、グループ内で大学生と意見を交わすという貴重な体験もできました。この東高ならではの連携事業で、自らの意志で興味あることを学ぶことができ、また、それがプラスになり、そして大学生になった時の学ぶ楽しさを、一足お先に味わえて本当に良かったです。

静岡東高等学校　３年　岸端　久美
（国際関係学部　日本とアジアＡを受講）

今回、特別聴講生として大学の講義を受けることができ、一足早く大学の授業の雰囲気を身をもって実感することができました。学校の授業とは違い、１つのテーマを時間をかけて多方面から見たり、深く掘り下げて考えるので、印象に強く残り、毎回興味を持って臨むことができました。また、講義がオムニバス形式だったため、それぞれの先生方の地域についての講義を受けることができました。大学の先生方はそれぞれ専攻した地域について研究していらっしゃるので、講義はどれも専門的、また個性豊かなものでとても魅力を感じました。これらの講義を受けて以前よりもアジアについて興味を持つようになり、もっと知りたいと思うようになりました。これは私にとって大きな収穫でした。

今回とても貴重な体験をすることができとても嬉しく思っています。
そんなすばらしいチャンスを与えて下さった先生方、そして興味深い講義をして下さった大学の先生方に深く感謝します。
ありがとうございました。

“ぶらりおいでよ剣祭”

11月2日、3日、4日にかけて行われた第16回剣祭“ぶらりおいでよ剣祭”が無事終了しました。くす玉が奇麗に割れたオープニングセレモニーで剣祭が開幕されました。大盛況に終わったBaby Booコンサート、熱いパフォーマンスが繰り広げられたカラオケバトル、老若男女問わず楽しんでくれたスタンプラリー、3日間とももに当日参加で競われた○×クイズ、掘り出し物がいっぱいあったフリーマーケット、そして一番の盛り上がりを見せた後夜祭。どの企画も盛り上がりを見せてくれました。

今年は3日間晴天にも恵まれ、今年のテーマである“ぶらりおいでよ剣祭”の意味にもあるように地域の方々も気軽に県大に足を運んでくれたと思います。もちろん剣祭を成功に結び付ける事が出来たのは参加団体の皆様の盛り上がりも忘れてはいけません。そして私たち学生が作り上げたこの剣祭に来場者の方々が加わる事によって、よりいっそうの盛り上がりを見せる事が出来ました。そして来年、再来年とまたみなさまにお会いする事を願いつつ、これからもこの剣祭が盛り上がっていく事を祈ります。

最後にこの場を借りてこの剣祭に関わってくれた方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

剣祭実行委員会委員長　徳増　暁